

コード	名 称	区分	コード	名 称
事業名	855 公民館事業経費	会計	01	一般会計
		款	10	教育費
		項	05	社会教育費
		目	06	公民館費
基本 施策	33 だれもが生きがいを持てる機会をつくる	細目	444	公民館活動費
		細々目	51	公民館事業経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部署	コード	451800		担当者
	名称	青山公民館		氏名
			本田 真章	連絡先
				52 - 1110 (内線)

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	青山地区住民	※対象件数
成果(どうする)	学習活動をととして、自らが高まるとともに人のつながりができる。 文化サークルが自立して活動する。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業内容	*まなびあおやま一般講座の開催(3講座54人) *まなびあおやま子ども講座の開催(2講座35回、述べ570人) *図書室公開講座(4講座179人) *青山文化サークル連絡協議会芸術発表会(11月22日)の活動支援 *ふるさと美術文化展覧会の開催(11月7~9日) *読み聞かせ事業(図書室11回165人、小学校23回352人)	
社会情勢 の変化等	講座等の開催をNPOや地域の活動団体と協働して実施することで、新たな活動のフィールドが創設された。	

整備内容(「施設の新設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の新設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
	まなびあおやま(一般・子ども)講座数	回数	目標 28	目標 28	10	9
			実績 15	実績 9		
	図書室公開講座	回数	目標	目標	4	4
			実績	実績		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
	各種教室の受講者数	公民館教室の受講者数によりより生涯学習の普及効果を推測できず	人	目標 750	目標 750	270	270
				実績 291	実績 266		
	図書室公開講座	講座に参加した人数	人	目標	目標	200	200
				実績	実績		

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
直接事業費計 (A)	1,785	1,927	1,927	1,927	1,927	1,927	1,927	1,927
Aの 財源 内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他	0	29		10		10	
	一般財源	1,785	1,898	1,917	1,917	1,917	1,917	1,917
事業投入人件費 (B)	0.2人	1,440	1.0人	7,200	1.0人	7,200	1.0人	7,200
フルコスト(A)+(B)	3,225	9,127	9,127	9,127	9,127	9,127	9,127	

事務事業の評価 (Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	○
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業	
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
達成度	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
達成度	サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
達成度	当初設定した計画を 60%未済 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
達成度	予算の繰越の有無 無	担当長期休暇のため、子ども講座開催数を精査した。
達成度	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
効率性	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
効率性	【事業名】	材料費等の徴収を行いコスト削減に努めている。
効率性	受益者負担を求めることができる事業である。	○
効率性	全体コストにおける負担構成は適正である。	
効率性	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	アンケートを実施して講座参加者や公民館利用者などの意見を講座に反映し、学び意欲を高めるとともに、参加者の幅を広める
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいない 【詳細】 子ども講座担当者が長期病気休暇のため、当初計画の事業内容を精査した。

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	中川 秀也
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 *まなびあおやま(一般・子ども)講座は、学習する場のきっかけづくりとして継続して行う。 *「伊賀市子ども読書活動推進計画」に基づき、図書室公開講座を行うとともに、学校への「読み聞かせ」出前講座を行う。 *自立して活動しているサークルの発表会の支援を継続して行う。
現時点における課題、その他	子ども講座のうち、「和太鼓教室」に代わる講座を計画していく必要がある。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	女子が参加したい「スポーツの教室」を把握するために、小学校児童に対してアンケート調査を実施する。